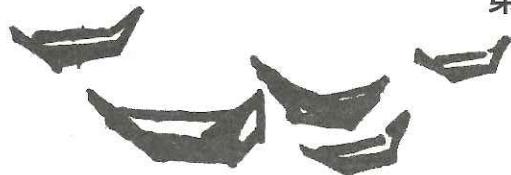


# ささぶね

第30号



## 竹早教員保育士養成所同窓会



### 共に学ぶ

会長 下平 喜代子

ささぶね30号が発行されました。会員の皆様からご協力をいただき、誠にありがとうございます。

創刊号は1969年10月1日に刊行され、初代会長の松石治先生が当時、多くの困難をのり越えてこられたことが述べてあります。歴史をふりかえってみて、これまで継続してこられたのも、二代会長の布施マサ先生、三代会長の前田美知子先生方のお骨折りと改めて感謝しています。

新年度がスタートしました。平成28年の入学式は養成校で行われました。校内での入学式は、はじめてのことと、会場の準備に教職員の皆様方が、新入生のために心をこめて、式場づくりをされておりました。式場には紅白の幕が用意されいちだんと明るい雰囲気でした。会場せましといえども親近感のある入学式でした。

新一年生には、同窓会からエプロンをお祝いとして、プレゼントいたしました。エプロンには竹早魂が入っています。実習先や、調理実習でも使用してがんばってほしいと願っています。実習は学業の中でも大事な課目です。「本気すれば 大抵のことができる 本気すれば 何でもおもしろい 本気ですると 誰かが助けてくれる」 恩師から励まされた言葉です。

### 第15回 保育研修会の参加者からのアンケートより

#### 午前の部

講演 「保育者のためのアサーション」

講師 元聖徳大学大学院教授 芳賀明子先生

#### 午後の部

実技 「つくって遊ぶ楽しい活動」

講師 元竹早教員保育士養成所専任教員 広川信子先生

### 午前午後の研修を受けての参加者からの感想

- ◎アサーションという言葉の意味が演習を通してわかった。
  - ◎アサーションは今の自分の言動を見つめ直すとてもいい機会で、先生の言葉一つ一つが心にしみ、他園の先生方ともコミュニケーションがとれた。
  - ◎ロールプレーであらためて言葉かけの重要さに気づいた。
  - ◎相手を傷つけないような言い方を学べた。
  - ◎懐かしい先生の講義・実技を聞いて参考になった。
  - ◎学生と同窓生が一体となって、和気あいあいの雰囲気で良かった。
  - ◎参加して本当に良かった、素晴らしい講義のうえにお弁当、お茶の配慮も良かった。
- などありがとうございました。研修会の準備等については、同窓会の役員の皆様、養成校の皆様のご協力のおかげと心からお礼申上げます。

今回、研修の最後に、懇親会を行いました。理事長様をはじめ全教職の皆様が最後まで参加して下さいました。ティータイムには、黄桜力強様のピアノ演奏で、ふるさと、校歌などを歌ってなごやかに終わりました。本年卒業した新幹事の協力もあり良かったと思います。

平成29年には、同窓会も80年を迎えます。歴史を振りかえり、これからは若い世代の皆様に期待しています。



#### ・保育研修会

今年度は7月31日(日)に実施いたします。午前は、プロナチュラリストとしてテレビ・ラジオ等でご活躍の佐々木洋先生の講演・演習。午後は文京学院大学児童発達学科教授鳩山多加子先生(S.46卒)の実技研修と懇談の時間を計画しています。お誘い合せてご参加ください。

母校を訪ねながらのご参加をお待ちしています。

#### ・会報発送作業ボランティア

毎年5~6月に発送のお手伝いをお願いしています。お願いの手紙が届きましたら、是非、ご協力ををお願いいたします。

#### ・維持会費

同窓会を維持発展させる大きな原動力です。27年度は同期会、ご遺族からの送金も含め185名のご協力をいただきました。ご厚志にあつく御礼申し上げます。同窓会結成80年に向けて、皆様の温かいご理解、お力添えをさらによろしくお願い申し上げます。

#### ・学生募集

28年度新入生は114名です。母校のためになお一層のご協力ををお願いします。



## 流れる水

学校法人 竹早学園

理事長 吉野 尚也



今春、竹早を巣立つ平成27年度の卒業生は第128期生であり、入学生は130期生である。

今年度も卒業証書の記名に筆をとらせて戴く幸せを感じながら、この子が誕生した時に両親はどんな思いで我が子に命名したのだろうかと思いを馳せている。

人は一人ひとりに違いがあり、それ故に尊く「世界に一人」しか居ない、かけがいの無い存在である。

今年の卒業生台帳番号の最後が15,015ということは、既に一万五千人余の卒業生が「誠実にして、有為な幼稚園教員・保育士を育成する」という建学の精神を背にまたい世に送り出したことになる。

一方、竹早の同窓会は常に母校を温かく見守り、後輩を育て、支援・援助して頂き、心から感謝している。

更に、この「ささぶね」が象徴するように、水の如くどこまでも前向きに、障害物にぶつかれば迂回しながらも更に前に流れて行く水のように、困難にあって解決できないことがあっても、諦めず、迂回方法を考えながら前に進んで行きたいと思うこの頃である。

### ～就職指導室から～

中村 香津美

平成27年度の求人件数は、昨年同様1800件を超えていました。保育所・こども園・企業系の保育所は増加の一途を辿っています。東京、千葉、埼玉それぞれの連合会で就職説明会が夏から秋にかけて開催されるようになりました。説明会に参加し話を聞くことで、求人票からでは得られない情報を得ることができ、就職活動がより具体的になるようです。本校では1年生にも参加を呼びかけ、早い時期から就職活動に対する意識を高めています。就職試験は7月の特別区立幼稚園、8月の公立保育所に始まり、多数の学生が10月末の教育実習後から、見学・受験をし、10月から12月にかけて採用が内定しています。

平成27年度より「こども子育て支援新制度」がスタートしました。保育の現場では、保育士不足が問題となっていますが、幼稚園教諭も不足しているのが現状です。今後更に保育の環境、保育の内容、保育の仕方が多様化していくと予測されます。

## 後輩を育てる同窓会

所長 齋藤 光一



この3月に卒業した皆さん、同窓生としての誇りを胸に秘め、それぞれの職場に赴任していきます。先輩の同窓生の皆さん、新同窓会員への温かいご支援をよろしくお願ひいたします。

今、保育者としての資質についていろいろな論議がされています。本校も、保育者の養成校としてもこの論議を真剣に受けとめ、2年間で本当に「有為な保育者」を育てていかなければならぬと感じています。

そのために、本校では「学生の皆さん一人ひとりが、先輩からバトンを受け継ぎ、伝統ある校風を継承して学校生活の中でしっかりと専門性と教養を身に付ける」ことの大切さを、教職員は心を一つにして、日々、学生に訴え続けています。

同窓会の夏の研修会、保育研究発表会でのおやすみ処「ささぶね」も、在校生にとって「先輩からのバトン」を身近に感じるとても大切な機会になっています。同窓生から在校生へと同窓意識を引き継いでいくことの大切さは、いつの時代でも変わらないと思います。

同窓会の皆様、本校の教育活動へのご協力、ご支援をよろしくお願ひいたします。

### 平成27年度のあゆみ

4. 2	新入学生に お祝いエプロン贈呈	11.20	同窓会80年の歴史と歩み 講師 前田美知子顧問
4	平成27年度入学式 下平会長あいさつ		保育研究発表会について 後援会と合同打合せ
5. 26	正副会長会・特別委員会 「研修会について」	12.18	※当日に向けてそれぞれ準備
6. 2 ～3	第29号「ささぶね」等 発送作業 ボランティア延べ30名 協力完了	19 ～20	保育研究発表会会場準備 保育研究発表会開催 本校に於て
7. 31	研修会前日準備	2.19	正副会長会 保育研究発表会の反省
8. 1	保育研修会開催	3.15	新幹事歓迎会
10. 2	正副会長会 「保育研究発表会について」	17	平成27年度卒業式 下平会長出席
11. 20	特別委員会 保育研究発表会について (役割等分担)	18 25	会計監査 平成27年度理事総会

# 27年度活動報告

## 第15回 保育研修会

\*日 時：平成27年8月1日（土）10:00～15:45

\*会 場：竹早教員保育士養成所第1校舎

\*参加人数：154名（内1年生114名）、講演、実技、ティータイムが開催された。

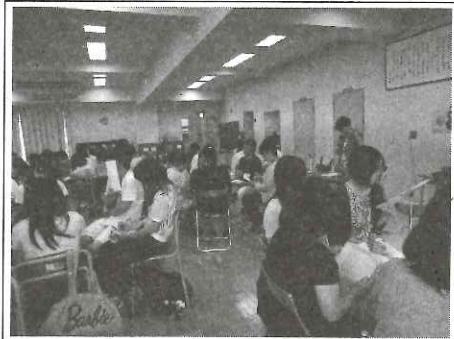
### <午前の部> 講演、演習

テーマ：保育者のためのアサーション

講 師：元聖徳大学大学院教授 芳賀明子先生

アサーションとは聞き慣れない言葉かもしれないが、言葉の意味は「自分も相手も大切にした自己表現」ということである。保育者は様々な人と関わる機会が多い。そこで、相手のことを大切にしながら自分の思いを率直に、正直に適切な方法で伝える人間関係の持ち方を芳賀明子先生から演習を通して学んだ。

「アサーションは今の自分の言動を見つめ直すとてもいい機会であった。先生の言葉一つ一つが心にしみ、他園の先生方ともコミュニケーションがとれた」（会員）、「普段の授業ではありません学べない声かけの仕方が学べて良かった」（1年生）など声があり有意義な研修であった。

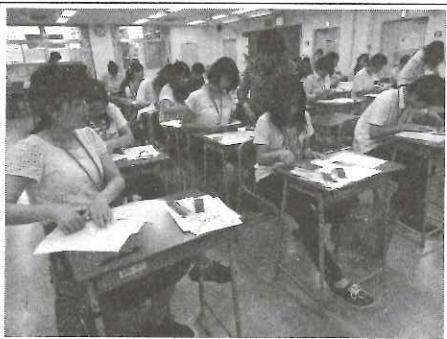


### <午後の部> 実技

テーマ：つくって遊ぶ楽しい活動

講 師：元竹早教員保育士養成所専任教員 広川信子先生

日頃の保育活動の中で、身近な材料を使って友達や先生と楽しく遊べる教材研究として、講師から提示された教材を使って実際に作品を作り、吹いたり動かしたりして実技研修を行った。これをヒントとして応用していくことが遊びを広げ、より一層楽しい時間を広げることを実践を通して学んだ。「作って遊ぶことで工夫を凝らし大人から子供まで楽しめる時間だった」「学んだことを保育の現場で活かしたい」「同僚に誘われて参加して良い経験ができた。卒業後もこうして学ぶことができる竹早の卒業生は羨ましい」などの声をいただいた。講師と受講者、そして同窓会との繋がりをこれからも大切にしていきたい。



### <ティータイムの部> 懇談

研修会終了後、折角集まった皆さんと楽しく懇談したいと今回初めてティータイムの時間を設けた。

学園からは吉野理事長、齊藤所長、河野副所長、中村・小川・相澤・赤津先生等担任の先生方、前田同窓会顧問、同窓生、学生と多彩な顔ぶれが集まった。清水副会長の司会で和やかで有意義に会が進められ、最後に黄桜力強様のピアノ伴奏で「ふるさと」「校歌」を全員で歌い終了した。

## 保育研究発表会

12月19日・20日の両日、学園の後援会と共に学園の保育研究発表会にお休み処を開設した。「ゆっくりとくつろぎ」のテーマにそって当日をイメージし接客、環境について話し合い準備した。

入口には手作りの暖簾、学園の先生の計らいで2年生が個々に作成した「クリスマスリース」を掲示してお休み処を一層楽しく、くつろげる場とした。

展示コーナーでは、初めての方でも同窓会がどんな活動をしているか解るように、夏の研修会の様子の写真にコメントを付け、アンケートからの言葉も展示。また、同窓生からの便りとして、同窓会事業の一つである「ささぶね」に寄せられた感謝の思いなどを展示した。



喫茶コーナーでは、いらした方々がゆっくりくつろいでいただけるよう、こだわりのお茶とお菓子でお迎えし、BGMにも心くばりをした。テーブルに折り紙を3枚使って折った「コマ」をそえた。よく回るので皆さん喜んで持っていかれた。今回も受付、接客等を全員で精一杯のおもてなしの心でさせていただいた。

今年で4年目の後援会との共催の“お休み処”年に1回の行事を通して後援会の方との絆が深まってきた。後援会の方々の意気込みも強く、環境作りの暖簾やお茶券、お菓子をのせるマット等に積極的に取り組まれた。

## 【平成28年度 竹早教員保育士養成所同窓会・理事会組織】

役職	氏名	卒業年	役職	氏名	卒業年	役職	氏名	卒業年
会長	下平喜代子	S.28	理事	八重樺純子	S.44	理事	渡邊千秋	H.26
副会長	田中靖子	S.33	理事	福岡潤子	S.46	理事	亀山菜摘	H.26
副会長	塚越アサ子	S.40	理事	高原泰子	S.46	理事	武井彩香	H.27
副会長	清水道代	S.57	理事	鳩山多加子	S.46	理事	佐藤能美	H.27
副会長	湯澤都与子	S.41	理事	井上千枝美	S.50	理事	木村萌乃	H.28
副会長	糸幸子	S.29	理事	大野みどり	S.52	理事	西山怜花	H.28
会計	釜井孝	S.39	理事	橋本明美	S.55	理事	三ツ矢麗加	H.28
会計 養成所職員	山口直美	S.55	理事	清水百合香	S.55	幹事	蕪木亞紀	H.28
会計監査	上田恵子	S.44	理事	畠山範子	S.57	幹事	木賀あずさ	H.28
会計監査	小野寺萬亀子	S.38	理事	井関公美子	H.6	幹事	津崎愛子	H.28
理事 養成所教員	中村香津美	S.55	理事	田中通子	H.8	事務局長	釜井孝	S.39
理事 養成所教員	小川貴代子	H.8	理事	藤井大輔	H.24	事務局	大野千恵子	S.43
理事	岡川洋子	S.36	理事	渡邊都美	H.25	事務局	糸幸子	S.29
理事	川村美津子	S.40	理事	中澤友華	H.25	事務局	今野君江	S.35
理事	細田和子	S.44	理事	田部井涉	H.26	事務局	湯澤都与子	S.41
理事	福田多喜子	S.44	理事	吉田舞	H.26			

## 事務局だより

平成28年度の活動がスタートしました。毎週火曜日の開局日には下平会長以下事務局員が順次出勤、釜井事務局長を中心に仕事が始まります。

事務局の主な仕事としては、

- ・会報「ささぶね」の編集、発行
- ・保育研修会の計画、実施
- ・会員名簿管理及び整理
- ・学校との関連事業（同窓会紹介、新入生入学祝い品準備＝エプロン、保育研究発表会等）

結構忙しく一日があつという間に過ぎてしまいますが、その間いろいろな話をします。新しいことにも出会います。久しぶりの経験もします。ワイワイガヤガヤ、それなりに楽しく愉快にやっています。

スタッフ一同今年度も気持ちを新たに勤めてまいりますので、ご協力の程どうぞよろしくお願い申し上げます。



## ささぶね 第30号

発行日 平成28年6月1日  
発行者 竹早教員保育士養成所同窓会  
代表者 同窓会長 下平喜代子  
印 刷 有限会社 三香堂印刷

会員の皆様に、次のことでお願いいたします。

○住所、氏名、その他変更事項がありましたら、必ず事務局までお知らせください。

毎年100通以上が宛先不明で返送されます。

皆様のお手元に確実にお届けできるようご協力を切にお願いいたします。

○維持会費振込用紙には卒業年を忘れずにご記入ください。

○事務局は第二校舎2階で、毎週火曜日に開局しています。お近くにお出かけの節には気軽にお立ち寄りください。同窓会に対するご希望、ご意見がありましたらどうぞお寄せください。

## 編集後記

会報ささぶね第30号もお陰をもちまして、皆様にお届けすることができました。ご多用の中ご寄稿くださいました方々、発送作業にご協力いただいたボランティアの皆様に改めて心より御礼申し上げます。ありがとうございました。ご感想、ご意見等ございましたら同窓会宛によろしくお願いいたします。

## 同窓会事務局

《開局日 毎週火曜日 10:00～15:00》  
〒112-0002 文京区小石川4-1-16  
TEL／FAX 03-3813-7188  
e-mail takedousoukai2131@pony.ocn.ne.jp

# ささぶねひば

## おもいで・近況報告

### 幼稚園教諭として

**本多 理沙 H25.3卒**

保育は毎日新しい発見があり、子どもたちは日々成長し私にたくさんのことを感じてくれます。

新卒の頃はかわいい子どもたちに囲まれて「楽しいなあ」と思い毎日を過ごしていました。就職して3年目の今年は行事や日々の生活を通して、子どもたちが満足感や達成感を得ている姿に、私自身大きなやりがいを感じることができました。

竹早時代多くの先生方に教えていただいたことが、自分の保育の礎となり充実した毎日を過ごすことができています。

### 近況報告

**青木 優 H26.3卒**

2年前に竹早を卒業して現在は「正夢の会」という社会福祉法人で障害者の入所生活（入浴、食事、排泄の介助等）の支援をしています。私が担当しているのは知的障害や自閉傾向のある方々です。

日々の利用者の支援も大変ですが、利用者の保護者と連携したり、他の担当者と協力したり、情報を共有したり、共通認識を持って支援にあたることの難しさを日々感じています。周りの先輩や友人の心の強さや利用者の何気ない様子や一言に元気をもらって何とか現在に至っています。

### 日々成長

**武井 彩香 H27.3卒**

高校を卒業する時、「2年後の春たくさんの方々と一緒に新しいスタートをきる」と両親に手紙を書いてから2年。去年の4月から公立幼稚園で特別支援員として働いています。

「この子にとって何が一番良い方法なのだろう?」と日々勉強の毎日であり、一日一日成長する子どもたちに私自身成長させてもらっています。金曜日になると仕事の話をしながらごはんを吃るのは竹早で出会った仲間です。そんな仲間に出会うことの出来た竹早は私の大切な場所です。竹早や現場に出て学んだことを生かしこれからも笑顔でよりよい保育をしていきます。

### 初めて学級担任になって

**関 友貴 H27.3卒**

私は4月から1才児のクラス担任として保育士生活をスタートしました。実習の時とは違い、初めは担任として自分のクラスを持つことにプレッシャーを感じました。しかし、毎日周りの先生方や同期に支えられ、仕事を覚え、楽しく保育ができるようになりました。1才児の子どもたちは、少しづつ言葉が出てきたり、身の周りのことを自分でしてみようしたり、日々の成長がたくさん見られる時期だと思います。可愛い子どもたちの成長を保護者の方々と喜び合っていける嬉しさを感じ、改めてこの仕事に就くことができ、良かったと感じています。

同窓会は平成29年度に結成80年を迎えます。

学園の創立130年記念事業と合わせて、今後具体的に計画していきます。

## 私の財産

宮崎 幸子 H2.3卒

「高校の出欠席数を見て、順番に助手のバイト先を決めます」当時、竹早の午後部に入学予定だった私達に、午前中のバイト先を紹介して下さる先生の言葉だ。「学校を何日も休んでいるようでは、現場で通用しないから」まだ高校を卒業したての私には、とても厳しい言葉に思えた。しかし、その後自分が現場に立ってみると、それは決して厳しい言葉ではなく、当然だと身をもって知った。竹早で厳しく指導して頂いた事は、はっきりと記憶に残り、今では私の財産になっている。今も現役で働けるのは、当時の先生方のお陰だと、深く感謝している。

## 支えられて

宇野 佳織 H8.3卒

竹早での生活は、同じ目標をもつクラスメイトと楽しく過ごす一方で、教育実習のたびに日誌などの書き方に苦戦したり、必ず熱を出したり、課題の多い生徒でした。就職1年目は、1年勤められるか不安の連続でしたが、子どもたちの素直さと一生懸命な姿・仲間や先輩方・たくさんの人々に支えられて気がつくと20年目でした。子どもたちの成長に感動し、自分も置いていかれぬよう相変わらずジタバタしています。今回、色々な事を考える良い機会となりました。子どもたちの笑顔を励みに、もっと視野を広げ、学んでいきたいと思っております。

## おかあさんって先生だったの？！

嶋本 郁美(旧大橋) H13.3卒

教員としての生活より、母親としての時間がすっかり長くなりました。我が子の成長を近くで見守ろうと、仕事を離れました。3人の男の子の子育ては、保育の仕事をしていたとはいえ、思うようにはいかず…仕事にも育児にも活躍する仲間に、焦りを感じた時期もありました。けれど、やはり子どもとの時間は幸せで、かけがえのないものですね。末っ子はもうすぐ幼稚園最後の年を迎えます。先生への歌のプレゼントに、伴奏をする機会があり、久し振りに懐かしい感覚がよみがえりました。そろそろ仕事をしたいなあ…と心から思える今日この頃です。

## 近況と回想

横山 美知子(旧三上) S24.3卒

一昨年夏、家から近距離の特養老人ホームに入所。採光・眺望良好、お陰様で申し分ない「終の住処」に落ち着くことができました。だが「孤独の時間」が多いので悲しくなることがあります。その時は思い出が蘇りますが、不思議なことにお世話になった方や友人達は元気溌剌、昔の您です。

鏡を見れば私の容姿の衰えは一目瞭然ですが、記憶に残る花の盛りを思い出して、背筋を伸ばし「涼しく」人生の幕を閉じたいと思っています。万感の思いで一言、「ありがとうございました」

## 卒業してから50年

久永 久美子(旧岩船) S40.3卒

竹早教員養成所を卒業してから50年余りたちます。すぐにキリスト教保育幼稚園で働きました。竹早と違う保育も子供達と遊びながら園長先生のお話によって成長させられていきました。結婚して子育(二児)しながら小中高大を我子を通していろいろ学んでいきました。平成に入りますと幼児減少により経営も大変になり閉園致しました。現在まで世の中の子育てと、青少年の行動を見ていますと、時代によって変化していくことを強く感じます。日常の中で公園等子供の様子で注意することが目につきますと助言するような私です。初老ですが元気であります。

## 人とのつながりご縁を大切に

木村 登喜(旧副田) S63.3卒

今の目標は東京オリンピックのボランティアとして海外のお客様を迎えておもてなしをすることです。ただ英語不足を実感しており英会話教室に通っています。又インターナショナルスクールで日本語ティチャーとして働かせていただいており多国籍の子どもたちや同僚からも毎日刺激を受け吸収したいと思っています。日本の幼児教育のすばらしさも改めて感じ、それを伝えたいと思っています。仕事や子育てを通じてこれまでたくさんの人にお世話になってきました。今度は人のためにできることを少しづつ返していかれたらと思っております。

## 再会を楽しみに

**鈴木 さち子**(旧木村) S33.3卒

昼間は幼稚園の助手、社会で働く、年令も様々な人々と出会い、夜間部で二年間学ばせていただいた昔を思い出しています。卒業後私は二年間の幼稚園勤務のあと、結婚、出産、子育ての後職場復帰を考えている時、東京都で0才児の保育を補完する家庭福祉員(保育ママ)という制度のあることを知りました。練馬区の認可をうけ定年まで保育に専念、幼児教育とはちがった人生でしたが意義ある30年だったと思っています。同期の友人とクラス会(みつみ会)も長く交流がありました。平成25年10月10日、2020年東京オリンピックに逢いましょうと散会しました。その日を楽しみにしている毎日です。

## 幼稚園と共に過ぎた日々

**本多 三枝子**(旧小宮) S44.3卒

私が竹早教員養成所を卒業して、早いもので47年が経ちました。幼い頃の夢が叶い、初めは羽生の幼稚園で5年勤め、その後結婚を機に川口の幼稚園で勤めており可愛い子ども達にエネルギーを貢いながら今に至っています。卒園児が教育実習に来てくれたり、立派な親になってお子さんを連れて来てくれます。その姿は変わっていても、園生活を共に過ごした日々は鮮明に覚えているものです。そんな時に私は喜びを感じるとともに、この仕事に誇りを感じるのです。また、竹早時代の同級生と毎年旅行へ行く度、昔話に花が咲くのも楽しみです。

## 私の宝

**菊地 恵里子** S46.3卒

私は二十歳で幼稚園教諭を志し竹早に入りました。寮の同僚とクラスで親しくなった人との間に友情関係ができ、卒業後も会っていました。若い頃は仕事、そして親の介護へと。最近はそれぞれの健康、老後、福祉への不安へと変化しています。が今も変わらず出て来るのは竹早時代の思い出話です。その時は皆あの頃に戻ります。私は幼稚園に29年、退職後は温めていた夢をひとつずつ叶え、今充実した日々を送っています。がやはり一番の幸せは今も各地から集合し温泉、旅行と楽しんでいる竹早時代の友人達です。これは私の一生の宝です。

## 自慢の友達

**石田 敏子**(旧国府田) S51.3卒

竹早六人衆をご紹介します。時々集まって旅行、食事おしゃべり。40年以上のお付き合いは、有難いことです。最近は孫やペットの事等、楽しい話題が多いですが、過去にはいろいろありました。仕事のこと、子育てのことと健康のこと、介護のこと等、辛い時に話を聞いてもらえると落着きます。気休めではなく心からの言葉が、私を前向きにしてくれます。いいでしょう!私の友達は、いつも心に寄り添ってくれます。あやちゃん、祥子ちゃん、俊子ちゃん、久代ちゃん、昌代ちゃん、そして(故)典子ちゃん。ありがとうございます。これからもよろしくね。

## 良き友に恵まれて

**四宮 真弓**(旧長井) S52.3卒

卒業して39年になり、現役生活も後一年を残すばかりとなりました。当時は、午前・午後の2部制で、午後部だった私は、午前中は公立幼稚園でアルバイトをしていました。贋写版を使って手紙を刷ったり、ケガをした児童に薬をつけたりする仕事です。授業では、素話をしたり、絵本を作ったりしたこと。別棟の体育館に移動する時にはジャージ姿でヒールの靴という妙な姿で恥かしかったこと。ピアノの練習室の争奪戦が日々あったこと…。等々を覚えています。同級生の友達とは、今でも仕事のことや家庭のことなどをおしゃべりしながらごはんと一緒に食べて楽しい時間を過ごしています。

## わが母校

**青柳 香代**(旧鈴木) S60.3卒

私が通っていた頃は、午前部と午後部の二部制でした。午後部だった私は、午前中幼稚園でのアルバイトを終え午後から登校、友人と「おはよう」と挨拶をしては先生方から「おはようの時間帯ではありません」とお小言を頂いたものです。クラスメートとは毎年一回のクラス会が恒例で、仕事、結婚、子育てと話題は年々変わっていましたが、共に学び、笑い、歌った仲間との友情は、より深まっているように思います。『ささぶね』掲載をきっかけに、疎遠になっているクラスメートからの連絡がある事を願っています。

## タイムスリップといい加減

菅家 直子 H13.3卒

卒業し、約15年。初めて担任した子ども達は、今年大学生。自分はすっかり‘オバサン’になったと感じます。でも、子どもにとって私は何年経とうが‘オバサン’ではなく‘先生’。友人も然り。昨年末、同窓生と再会し一気に学生時代に「タイムスリップ」でした。ところで以前、私は縁あって海外(中国)の幼稚園に勤務していた時があり、日本との違いで一番驚いた事、それは時間の感覚。約束した時間に届かない・来ないことはしょっちゅう。明日でもいいことは今日まずやらない・車内で口喧嘩が始まると解決するまでバスが止まる等、初めはイライラしたものでした。しかし数か月もすると、‘中国式’を受容できるようになっていました。結論は簡単、‘いい加減が良い加減’だということ。勿論大切なことは外せませんが、世の中にはいい加減でも良いことは、意外と多いもの。子どもと接するのに年齢なんて関係ないですし、同窓生と会うのに大人ぶる必要もないと同じ。折り紙がなくてもチラシを四角に切れば平気です。友人との再会や会報に原稿を寄せる機会をいただいたことで、「タイムスリップ」し、‘良い加減’を再確認できました。

パワー充電完了。前向きに歳を重ねてゆけそうです。

## 歴史ある同窓会に思う

苅谷 道子(旧関) S43.3卒

現役時代、前田前会長からご指導を頂いたご縁で同窓会事務局の手伝いに、微力ながら6年余り係わらせて頂きました。現役時は目前の仕事に追われ、同窓会に目を向ける余裕が持てませんでした。手伝い始めてからは目から鱗の連続でした。同窓会の基本は創立130周年を迎える伝統ある母校の益々の発展を常に基本に据え、先輩同窓生が数々の「同窓会諸事業」にボランティアで全力で取り組まれているということです。この姿が在学生の目にも留まり卒業後の同窓会への関心に繋がっていることを実感しました。今後もできる限り協力し、母校の発展に尽くします。

## 近況報告

河面 ユキ子(旧田中) S29.3卒

京都の住いも10年となり、環境にすっかり慣れ、一日一日を楽しんで、生き生きと生活しています。また、大好きなコーラスも続けて、バッハにとりつかれ、昨年は「クリスマスオラトリオ」を発表し、今年は「マタイの受難曲」を、演奏して好評を得ました。自己満足ですがドイツ語を学ぶ機会にもなり、老いて喜びを充分感じて少しでも、ボケ防止となるよう努力しています。

日曜日は必ず出席してコーラスの友人も増し男女仲良く演奏しています。声も少し出にくくなっていますが、高音部分は、出る人に任せて、低音部は十分担当します。

## 夢をもって生きよう

松永 美代子(旧片山) S14.3卒

昭和14年卒96才の松永美代子です。現在ホームに入居しています。歩行器が友達で趣味は俳句づくり、地域の新聞に隔月で投稿しています。長い人生色々でしたが「夢をもって生きよう」をモットーに生きてきたお陰で公立保育園を50才で停年退職後38年前(昭和53年4月)にやっと夢が実現し、社会福祉法人東割保育園を設立し、現在娘夫婦が後継しています。80才近くまで幼児教育に携われたのも貴校で取得した資格が幸いしたのと永年子ども達から元気をもらったお陰と感謝しています。これからもホームの皆様、家族に支えられ人生悔いなく楽しく過ごせたらと思います。最後に新作を一句「春近し少なき友に会える日を」美代子句 では皆様お元気で



# 特集 ささぶね30号に寄せて

今日この頃

田中 靖子

4月、入学式や入園式が行われている時期です。先日同窓会の下平会長より、母校竹早の入学式で祝辞をのべられた、とお聞きしました。私の中に自分の竹早での入学時が甦ってきました。昭和31年4月で学芸大学の中での入学式でした。1年制で入学し、2年制になり新築の校舎に移って勉強し卒業しました。幼稚園教諭免許状を手にして、今まで幼稚園の中で幼児たちと毎日走ったり笑ったり過ごしています。もう58年経ちました。我が幼稚園の保護者や卒園生に「いつまでもボールを蹴ったり踊ったりしてくださいね。」と励まされています。

## ダイヤモンドの輝き

塙越 アサ子

私は、50数年前竹早から都電で10分程のところにあった幼稚園で、教育実習をし卒業と同時に採用して頂く。公立に移り無我夢中で過ごした担任時代や、先輩と一緒に夏季研修の手伝いをさせて頂き、大勢の参加者が熱心に学んでいたことを懐かしく思い出します。過日、前同窓会長前田美知子先生から竹早の歴史と歩みについてお話を伺う機会がありました。かつて竹早は教育の質の高さから「校舎はマッチ箱でも中身はダイヤモンド」と評価されていたお話に、先人のご苦労に胸に迫るものがありました。先人の努力に応える為にも、竹早が増々輝き続けるよう若い力に期待しています。

## 歴史を繋ぐ「ささぶね」

湯澤 都与子

同窓会に関わって約10年が経ちました。歴史あるこの会が、どのように歩んできたのかを先輩の方々から伺う時、「ささぶね」の存在はとても大切です。

毎年6月頃に会誌が届けられるよう、前年度の後半から準備に入ります。担当者を中心に企画会が開かれ、テーマや内容、執筆者等が検討されます。最近は、「ささぶね」を読まれての感想も聞かれるようになりました。また、事務局に訪ねてくる方もいます。うれしい次第です。いろいろな時代を経てきた同窓会の歴史がこれからも「ささぶね」を通して繋がっていくことでしょう。



副会長のみなさまから  
メッセージをいただきました。

## 歴史から学ぶ喜び

清水 道代

子ども、子育て支援新制度など保育が変革期を迎える中、私は保育の歴史に光をあてるこの重要性を感じていたところ、保育雑誌「幼児の教育」(1920年代後半)の中に卜部たみ先生の保育記録を発見し、その内容から当時の豊かな保育実践を知ることができました。卜部先生は、大正～昭和期の東京府女子師範学校附属幼稚園の主任保姆であり、帝都教育会教員保姆伝習所の教員を勤め、初代会長松石治先生に同窓会設立を促した人物でもあります。卜部先生の保育記録から竹早の歴史的価値と歴史を紡いできた卒業生に感動と喜びを感じています。

## 豊かな心を忘れずに

糸 幸子

多様で変化の激しい社会で、卒業生の皆さんが各地域で活躍している姿を読み聞きして大変嬉しく思っております。私は卒業して半世紀以上が過ぎ健康で元気で同窓会の手伝いが出来る事に感謝しております。現在は地域の高齢者の方々の少しでもお役に立てばと思って活動しております。先日は日本人として初めてエベレスト登頂や北極を単独で犬ぞりを使って登頂を成功し、無線を最後に消息を絶った植村直己冒険館を見学して来ました。どの様な状況におかれても「人間らしい豊かな心」を目標に向って努力する(冒険精神)に心をうたれました。

# 同期会やってま～す！

## 私たちの同窓会

**奥山 美津子**(旧石黒) S38.3卒

7年前、私達は47年ぶりに「竹早教員養成所同窓会」と称し集いました。その時の幹事さんは、名前と住所の確認に苦労したと思うのですが、それでも出席者24名が集まり、食事しながら“おしゃべりの花”を咲かせ、時の経つも忘れる程楽しい時間を過ごしました。

当時、在学中は地方から親元を離れ学生寮で生活しながら又2部制だったので幼稚園の実習を兼ね仕事しながら…と一人ひとりが切磋琢磨していたものです。

その頃の面影がよみ返りすぐ打ち解け合う人達、すぐには思い出せず互いに自己紹介し合う人達。長い年月の隔たりも感じさせず、すぐに親交を深めることができました。この“集い”を大切にしましょう。とその後、年一回は旅行を楽しみながら、交流を楽しんでいます。

「竹早教員養成所」というひとつの学びの場でめぐり合った仲間が、50年以上経っても互いを思いやり、励まし合い心おきなく楽しさを味わえる！ということは、何よりの“財産”と思っています。

「お互いに身体を大切にして、又会いましょう」を合言葉にして、これからも続けてたい、この絆を深めたいと思っています。

## 仲良し4人組

**鎌田 宣子** S39.3卒

竹早を卒業して早52年、遠い昔の事の様に思いますが、今でも年に1度は会っている友人達、舞踏劇で夜遅く迄練習したり、スキー教室に参加した仲間でそれぞれ東京、千葉、川崎、横浜に住み区立幼稚園の主任や保育園の園長をされた方達で友人1人と私はわずか6年余りの勤務でしたが皆とても気が合い楽しい仲間です。仕事と子育て中は中々会う事が出来ず退職したり子育ても一段落しゆとりも出来た10数年前から年に1度会う様になりました。交代で当番を決め長野や埼玉秩父方面、湯河原等に一泊したり日帰りで千葉成田方面や上野界隈を散策したりしています。時々学生時代の懐かしい話をして、旧姓と結婚後の姓をごちゃごちゃにして呼び合いすっかり学生気分です。

そんな仲良しの友人達、いつ迄も皆元気で年に1度の再会を続けて行きたいと願っています。



## 竹和(ちくわ)の友

**八尾 規子**(旧鈴木) S50.3卒

昭和50年3月に卒業した私たちは、幼稚園教諭として同じ道に進み「竹和会」を立ち上げました。月に一度集まり、お互いの情報交換をしながら、更に交遊を深めて行きました。卒業旅行を機に年に一度の旅行も恒例になり結婚・出産を経て、子どもたちも一緒に連れて出かけました。担任だった清野晴子先生も、職を辞されてからご一緒し、子どもたちの成長を見守っていました。今では大変懐い思い出になりました。



## 仲間とのキズナ

**木村 真美** H11.3卒

卒業以降2年に1回のペースでクラス会を開催し、交流を深めてきたA組の仲間達。今回6年ぶりにクラス会を開催し20名が集まり、近況を報告しあいました。子育ての悩み・仕事の悩みなどを互いに聴き合い、時には笑いあり・涙ありでしたが、帰る時には表情が晴れ笑顔になるなど、楽しいひとときを過ごしました。いつ会っても、悩みを相談したり・保育の情報交換ができる仲間達。これからも、より交流を深めていきたいと思います。そして、今回は広川先生にお会いできず残念でしたが、次回ご一緒できることをみんなで楽しみにしています。

## 母校の速報

☆平成28年度の入学式が開校以来初めて、本校第1校舎において挙行されました。

新入生は114名です。下平会長が列席しました。

☆ホームページがアップされました。同窓会のページも掲載されていますので、是非ご覧ください。

☆創立130年行事準備委員会が発足しました。記念式典は平成29年10月1日(日)の予定です。